

地域

南湖清掃ボランティアがご活躍されています福島県白河市は、古くから奥州(東北地方)の玄関口として知られています。奈良・平安時代頃に存在したとされる白河の関は、廃関後も、能因法師、松尾芭蕉など、多くの歌人に歌枕の関として愛されてきました。阿武隈川水系の上流域に位置する南湖は、1801年に白河藩主松平定信の士民共楽の理念のもとに日本における先駆的な公園といわれ、現在では、地域のシンボルとして市民や観光客の憩いの場となっています。

経歴

近年南湖では、上流周辺部の都市化の進展に伴って、ジュンサイをはじめとする貴重な動植物が姿を見せなくなるほどまでに、水質が悪化していました。そこで平成14年12月に、社川沿岸土地改良区と白河市が協働して、南湖の水を抜く「池干し」を38年ぶりに実施し、ゴミ拾いなどの清掃活動を行いました。その後、清掃ボランティアは年々増加し、活動内容も多様化してきています。

功績内容

- ・南湖では、以下のとおり、産学官の連携による様々な活動を展開しながら、水質改善に取り組んでおり、水資源の保全、水資源行政の推進、水源地域の活性化に貢献しています。
- ・環境団体が水質調査やパンフレットの配布を行い、大学の研究者らが協力して、調査・研究、助言し、動植物の「南湖図鑑」を作成、地域の小学校・高校がそれぞれ水質浄化活動を実践
- ・地域の事業者もボランティア活動に参画、周辺の店舗がボランティア活動を支援(南湖団子、豚汁、南湖おにぎりの提供など)
- ・行政は、ワークショップ・シンポジウムを開催、周回道路の規制実験、図画コンテスト、石積修復などを実施



「池干し」清掃のようす



環境学習会



12年ぶりに発芽が確認されたジュンサイ



南湖図鑑